

基腐病への
使用方法変更

かんしょの基腐病とつる割病に

ベンレート®水和剤



ベンレートは住友化学の登録商標です 農林水産省登録 第20889号

基腐病



被害圃場



つる割病



被害圃場



2018年12月に鹿児島県、2019年1月に宮崎県で確認された新病害。
病原菌：糸状菌 (*Diaporthe destruens*)
被害状況：はじめ、地際部の茎が黒色～暗褐色に腐敗し、株の生育不良、黄化、赤化が生じる。
被害が進行すると、茎の上部および塊根に腐敗が広がり、やがて株が枯死。

病原菌：糸状菌(主に *Fusarium oxysporum*)
被害状況：植え付けて間もない活着期から発生し、枯れて欠株となる。掘り取り期まで発生。
葉は黄色みを帯び生気がなくなり、黒ずんで紫褐色になる。
株のつるの地際部は、縦に大きく裂け、茎の繊維が目立ち、典型的なつる割れ症状となる。

登録内容 (かんしょ／植付前／苗浸漬、苗基部浸漬を抜粋)

2022年6月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数*	使用方法
かんしょ	基腐病	500～ 1000倍	—	植付前	1回	30分間 苗浸漬
	つる割病 黒斑病					20～30分間 苗基部浸漬

*ベニミルを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)

注意事項(抜粋)：かんしょの基腐病に使用する場合は、苗全体に薬液が浸かるように処理すること。

基腐病への使用方法が
「苗浸漬」に変更となりました!

「苗浸漬」とは、浸漬部位を苗の基部に
限定しない処理方法を指します。

上手な使い方は
裏面へ!



基腐病・つる割病対策

感染経路

- ① 罹病種いも
- ② 土壌
- ③ 採苗作業時のハサミ等を介して伝染する。

防除対策のチェック

1 基腐病・つる割病に感染していない苗の準備

- ▶ 発病が見られた圃場の芋は、種いもに用いない。
- ▶ 苗は株の地際から5cm以上離れた位置で採苗する。
- ▶ 採苗時のハサミはこまめに消毒する。
(火炎滅菌または丁寧な水洗と拭き取り)

2 定植前の苗消毒

- ▶ ベンレート水和剤500倍液に30分間苗浸漬を行う。
- ※ つる割病防除の際には500倍液に30分間苗基部浸漬を行う。

3 圃場対策

- ▶ 発病の見られた圃場では連作しない。
(ヒルガオ科以外の作物との輪作で)
(土壌病原菌密度を抑える)
- ▶ 圃場内に水が溜まらないよう排水対策を十分に行う。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届くところには置かないでください。
- 空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

上手な使い方(基腐病対象) ベンレート水和剤による苗消毒

イメージ図



- ▶ 苗全体が薬液にしっかりと浸かるように十分な薬液量を用いて浸漬する(左の図を参照)。

※ 苗全体を浸漬することで効果がより安定します。

ベンレート水和剤の使用におけるポイント

- ① 採苗後は、速やかに苗消毒を行ってください。
- ② 消毒液は、ベンレート水和剤500倍液がおすすめです。
- ③ 30分間浸漬を行ってください。(浸漬時間を守ってください!)
- ④ 作成したベンレート水和剤液は当日中に必ず使い切ってください。



安全使用上の注意事項(抜粋)

使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。

出典: 「鹿児島県 鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会 鹿児島県園芸振興協議会」資料、
「生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(010200)令和3年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生病態と防除対策」」

04R6F22B121:PC

2022年6月作成(ビュアカラース)

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCG GROUP

住友化学

〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト <https://www.i-nouryoku.com>

